

# おお大勝利

平成 23 年度山東サッカー部報第 10 号 (7 月 5 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## Y1で連敗 残留に黄信号

7月3日(日)日大山形グラウンドでY1第7節、新庄東戦が行われました。これまで山東は2勝3敗1分けで、苦しい星の状況。ここで勝ちを拾えば、2回総当たりのYリーグ前期の成績を五分に戻せるだけに、重要な試合。相手の新庄東は、ほぼ1・2年生でYリーグを戦っており、ここまで勝ち点ゼロ。苦しい試合が続いている。山東としても、ここまで得ている勝ち点は代替わり前にゲットしたものであり、今後勝ち点を積み重ね、順位を上げて行くためには何としても今節で結果が欲しいところ。新庄東は丁寧にパスをつないで来るので、プレッシャーをかけて自由にパスを回させず、奪ったボールを力強くゴール前まで運ぶサッカーができれば面白い。

試合が始まると、新庄東のパスサッカーのペース。山東はFW、MF、DFの間がそれぞれ間延びしており、そのギャップ(選手間の隙間)に入り込む新庄東の選手を捕まえ切れない。間延びを防ぐには、FWなどの前にいる選手を下げさせるか、DFなどの後方の選手が上がるかして、コンパクトネスを維持する必要があるが、チームが一つの生き物のように有機的に動くということができず、相互の連携を欠いてバラバラに相手に対処している、そんな印象。仮に間延びしていたとしても、相手選手よりも活動的に、そして深い読みで動くことができれば、ギャップを使われるという事態を防ぐことができるのだが、新東のパスワークに後手を踏み続けている。若いチームである新東もミスは多いのだが、山東も最初のプレー(ボールの奪い際のプレー)でミスをして、奪ったボールを相手にお返しするプレーが多い。まさに、山東恒例「ミス返し」。新東は、インサイド(中 or 内)の選手がアウトサイド(外)にいる選手に一度パスをして中でもう一度もらう中・外・中のワンツースにより、山東のバイタルエリア<sup>1</sup>への侵入にたびたび成功。山東を苦しめる。山東のMFもDFも、上記の新東の攻め口に対応しても良さそうなものの、何度も同じ手に引っ掛かっている<sup>2</sup>。一進一退ながら新東優勢で進んだ前半、簡単にDFラインまでボ

<sup>1</sup> バイタルエリア(vital area)とは、DFとMFの間のスペースのこと。相手DFの裏のスペースを有効活用できれば、得点への最有力の攻めにつながるが、相手もそのスペースをそう簡単には使わせてくれない。そうしたとき、相手DFとMFの間(バイタルエリア)にうまくボールを運ぶことができれば、DFの選手を釣りだすことができるので、崩してDFの裏のスペースにボールを運びやすくなる、相手DFが自陣深くに引いていれば、バイタルエリアにボールを運べばそれだけでシュートレンジに侵入できる、以上2点からDFとMFの間のスペースは勝負にとって死活的なvital場所areaとされています。

<sup>2</sup> 正直な話、山東ボランチとCDFにもっと戦術眼があれば新庄東の攻撃の意図を読むことができたと思うのですが、ここで山東の選手の至らなさはさておき、新庄東の選手たちが山東のアウトサイドMFとDFの間のスペースを的確に突いてきたことには驚かされました。山東はこの日、4-2-3-1のシ

ールを運ばれ、ゴール前で寄せが甘くなった瞬間にシュートを打たれ、本当に簡単に！失点してしまう。試合展開からして失点は致し方ないとしても、前節の山商戦の前半の方がまだ粘りはあったような……。攻撃においてもプレースピードの遅さが目立ち、やたらボールを持っては（ドリブルしては）奪われることの繰り返し。ドリブルするにしても、多くの選択肢の中でドリブルが最適と判断してのプレーというより、周囲の状況を把握していないから時間を稼ぐためだけの、「まずはドリブル」という印象のドリブルが多い。攻撃においても、山商戦の前半の方が鋭い攻撃だったような……。結局前半 0 - 1。

後半も悪い流れを立て直せず、DF の軽いプレーからゴール前で相手をフリーにしてしまい、追加点を奪われる。後半の後半にハムが右サイドに入ると、やっと攻撃に連動性が生まれ、山東の時間が生まれる。すると、ペナルティエリア直前で得た FK をマンサクが左足で新東ゴールに突き刺し、1 - 2 とする。その後、やや山東優勢で終盤を迎えるが、ここが勝負所、と集中して体を張る新東ディフェンス陣を前に一点が奪えず、結局そのままのスコアでタイムアップ。

部報の前号にて、「ちょっとでも初戦[新チーム初戦の前節山商戦]より成長した姿をお見せできればと思います」と書きましたが、退化した姿しか保護者の皆様や OB の皆様にお見せすることができず、何とも悔しいの一言。これで Y1 の前期を 2 勝 4 敗 1 分けの 6 位で終えることに。残留に早くも黄色信号が灯りました（7 位、8 位が自動降格）。モンテディオ山形と同様、今後粘り強く勝ち点を積み上げることができるか、いよいよ後期、正念場を迎えることとなります。次節は、山東ウスバ（一年）も選出されている U16 国体チームとの対戦となります。U16 国体チームは、今期から、ミニ国体を勝ち抜くための強化策として Y1 にゲスト参加しています。そこでの勝ち点はカウントされないため、勝ち負けが山東の Y1 での成績に繋がりませんが、ここまで書いてきたような状態の山東にとって非公式戦にて浮上のきっかけをぜひつかみたい。そういうタイミングで巡ってきた U16 との対戦。相手は山東戦を最後に Y1 を抜け、お盆の時期に開催されるミニ国体に臨みます。U16 からすれば、良い形でミニ国体に臨む意味から快勝が欲しいところでしょうが、山東も成功体験に飢えている状況で試合を迎える訳で、何とか粘りに粘りたいと考えています。応援よろしくお願いします。

7 月 9 日（土）Y1 第 8 節 VS U16 県国体選抜 12:00 ~ @山形中央 G

---

システムで試合に臨んだのですが、そのシステムの弱点の一つがアウトサイド MF と DF の間が空くことなのです。そのスペースを使われ、山東のボランチが焦ってアウトサイドにプレッシャーをかけに行くと、ワンツーでバイタルエリアを使われる、そんな展開がたびたび発生。そういう攻撃をせよとの戦術的な指示があったにせよなかったにせよ、的確な攻撃のできる新東が一枚上手でした。